

(熊本農業高等)学校 平成29年度学校評価表

1 学校教育目標
「敬天愛人」の校訓のもと、人格の完成を図りながら、各地・各界で活躍できる人材の育成を目指す。また歴史と伝統を大切にした特色ある学校づくりに努める。
教育スローガン
「輝く理想を掲げ 尊き使命を果たすため 生徒をほめて伸ばす 南園教育」
「人間力を高め 一隅を照らす人づくり 熊農魂で名実ともに日本一」

2 本年度の重点目標
教育とは流水に文字を書くようにはかない業である。しかし、それを岩壁に刻むような真剣さで取り組まなければならない。教育の基盤はあくまでも、教師と生徒との信頼関係である。教師が誠意と熱意を持って教育に真剣に打ち込むときに、生徒の心は動かされ、魂を呼びさまし、そこに信頼感が生まれる。
また、地域の人々に愛され、期待され、生徒が夢や目標を持ち、夢に挑戦することで、自分に対する自信と他者に対する思いやりの心を育成する学校づくりに努める。
教育は人なり（3つの火を燃やそう）
①一隅を照らす灯（教職員ひとり一人が個性と専門性を發揮し、さらに人間力を磨く。） ②石中の火（火打ち石から火花が散るように前例踏襲でなく果敢にチャレンジする。） ③燎原の火（教職員が仲良くスクラムを組んで野焼きの火のように協働する。）
目指す生徒像・目指す教師像（5つの誓い）
①口は人を励ます言葉や感謝の言葉を言うために使おう。 ②耳は人の言葉を最後まで聞いてあげるために使おう。 ③目は人の良いところを見つけるために使おう。 ④手足は人を助けるために使おう。 ⑤心は人の痛みがわかるために使おう。

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	学校目標の共有	学校の教育目標及び本年度の重点目標の周知徹底	教職員、生徒、保護者へ説明し生徒95%、保護者90%の認知度へ高める。	職員会議、職員朝会、全校集会、学年集会、一斉HR、PTA総会、PTA新聞、地区懇談会等で趣旨を説明する。	C	教職員の理解は高いが、生徒、保護者への周知が目標の数値に届かない。重点目標を整理して分かり易くする。
学力向上	家庭学習の習慣化	家庭学習課題の与え方と取組み	「家庭学習の実態に関する調査」で「週の半分程度学習する」生徒を10%増やす。	5教科を中心とした家庭学習用の課題配付を日常的に行う。前年度の課題配付状況を5教科内で共有し、自らの担当教科に役立てる。	C	家庭学習をする生徒はあまり増えていない。課題配付だけでなく、予習・復習の指導を含めた授業の見直しや考查問題の見直しも必要。
	学習内容の定着と基礎学力向上	成績不振者の減少	各考查の欠点者数・追試験該当者数を昨年度より20%減少させる。	公開・研究授業期間を設定し、教師の自己研鑽の機会をつくる。生徒による授業評価を実施し授業方法の改善に努める。「本時の内容」と「板書の範囲」の取組みを徹底させる。	B	1・2年生については目標が達成できた。教師が授業の充実に努め、学校全体で授業を大切にすることが重要。
キャリア教育(進路指導)	系統的・計画的進路指導の充実	系統的進路指導の実践と進路意識の向上 進路情報の	各種模擬試験受験と、資格を3種以上取得させる。3年1学期までに3回以上各種ガイダンス	2年次3学期までに三者面談や個人面談を行い、第一志望候補を検討するなど家庭との連携や進路意識を高める。	B	2年生は12月に保護者学習会を経て、3学期までの三者面談が全学科実施された。一年生については総合学習の時間で進路先への学習を深めた。

		提供	に参加させる。		
	キャリア教育の充実	職業理解能力の向上と勤労観、職業観の育成	3月末の就職内定率100%を目指す。	各学年2回以上の進路講話を実施し意識の高揚を図る。	B 3年生の就職や進学についてはほぼ全員決定が見られた。今後とも早期離職防止の対策が必要。
生徒指導	基本的生活習慣の確立	爽やかな挨拶と礼法指導の徹底 端正な服装指導の徹底 時間厳守の指導徹底	登下校指導を年間10回以上実施する。 生活指導カード(イエローカード)発行枚数を各学年において10枚以内に止める。	生徒会、委員会等の生徒、職員による挨拶運動の実施。入室時マナー指導徹底。職員全員がチェックカードを携帯し服装指導の徹底を図る。毎日の学校生活で全職員が共通認識を持ち指導を徹底する。	C 登下校指導 12回 各学期始め 3回 考查期間 5回 交通安全運動 2回 市生連交通指導 2回 イエローカード 18枚発行 1年 1枚 2年 17枚 3年 0枚 登下校指導については計画通り実施できた。生活指導におけるイエローカードについては目標を大幅に超えた枚数を発行してしまった。服装指導の温度差が学年によって見られた。全学年とも職員間で共通認識・意識のもとで服装指導に当たらなければならない。
	交通安全の推進	交通安全モラルの確立と二重ロックの徹底	二重ロック施錠率98%以上を常時目指す。 交通事故発生件数を全校生徒の10%未満を目指す。	毎日の登校時に二重ロックの点検を実施。事故防止のための交通安全教室を年2回以上実施する。	B 施錠率 99% 事故発生率 1.27% (事故遭遇 11人) 4月に通学方法別集会、10月に Stanton Manを活用した交通安全教室を開催。目標の数字を達成することができたが、交通マナーやモラルに関する苦情も報告を受けている。二重ロック未施錠、交通事故発生とともに0%を目指し、継続的指導が求められる。
	生徒会活動の充実	各種委員会の活動活性化 行事等の充実 部活動の活性化	クラスや学校が「楽しい」「満足している」と感じる生徒を80%以上にする。	定期的な委員会の開催を実施。 定例の生徒会を通年で開き、様々な行事の運営・準備・企画等を協議し、実践する。	B 学校が楽しい・まあまあ楽しい 91.7% ほとんどの生徒が学校生活を楽しめているようである。特に各種行事において生徒会役員が中心となり、綿密な計画・準備の基で運営に携わってくれた成果と思われる。一方で、各種委員会の定期的開催には大きな差があつたため、活動内容にもバラツキがあつた。

人権教育の推進	他者を思 いやる人 権感覚を 持った 生徒の育 成	人権教育の 学習内容の 充実、推進 体制の機能 強化と職員 研修の充実	各学年3回の人権 教育LHRの実施 、校内職員研修の 充実と校外研修へ の積極的な参加を 進める。	人権教育LHRの内 容及び指導案作成、 職員研修の内容等を 人権教育委員会で企 画運営し、実施後の 総括を行う。職員朝 会時に案内し、積極 的な参加を促す。	B	各学年とも計画通り人権 学習LHRは 実施できたが、内容につ いては委員会での検討が 必要である。2年生で講 演会が実施できた。職員 研修は計画通り3回実施 できた。人権教育の推進 に関する職員アンケート を実施し、全職員で確認 することができた。郊外 研修への参加者が少なか ったので、参加しやすい 体制作りが必要である。
	「命を大 切 にする心 」を育む 教育の推 進	自尊感情を 高め、自他 の命を大 切 にする生徒 の育成	ホームルーム、全 校集会等での指導 の他に、各教科、 各分掌と連携した 取組みを進める。	「平成29年度人権 教育の全体計画」に 沿って各教科、各分 掌で取り組む。人権 教育委員会では、そ の内容の検証と指導 を行う。	B	全校集会、一斉HRの講 話の中で「命の大切さ」 について取り上げ、生徒 の意識の高揚に努めた。 農業教科だけでなく、全 教科において人権教育の 視点に立った指導を心掛 けるよう全職員で取り組 んでいる。学校教育のす べての場面が人権教育に 繋がっているという意識 を持つことが大切。
いじ めの 防 止 等	未然防止 への取組 強化	いじめを許 さないクラ ス・学校づ くり、生徒 全員が安心 して学べる 環境づくり の実践	「いじめ防止」に 関する年間計画の 80%以上の取組 を実践。	「いじめを許さな い」雰囲気づくり、 生徒一人一人の観察 と個人面談等での情 報収集に努め、積極 的なコミュニケーションを図る。 教職員間で情報を共 有し、組織としての 取組を実践する。	C	計画実施率 88% 未実施ものもあるが、 ほとんど計画的に実施で きている。しかし、今年度 いじめと認知した事案が 1件発生したため、更なる 未然防止への強化が求 められる。
	早期発見 による取 組	いじめ防止 のための組 織運営の強 化及び早期 問題解決と 予防の強化	生徒の意見収拾に 努め、アンケートを 年間通じて5回以 上実施し、生徒及び 保護者が、抵抗なく いじめに関して相 談できる体制を整 備する。	「学校独自のアンケ ート」および「こころ のアンケート」を学 期毎に実施する。 保健室来室並びに遅 刻・早退・欠席等の状 況報告を共有する。 PTAに相談窓口を 設置依頼し、活用で きるよう周知する。	B	アンケート実施5回 学期ごとに計画的なアン ケートの実施ができた。 匿名性にこだわり、生徒 の記述しやすい方法で取 り組んだ。素直に記入さ れた意見等を職員間で共 有し、早期発見による取 り組みが行われた。
	発見後の 対応	いじめ問題 への対応マ ニュアルの 周知徹底及 び実践	いじめと思われる 事案が発生したら、 即対応、3日以内に 事実関係を明らか にし、5日以内にい じめ問題対策委員 会を開催し、マニュ アルにより対応す る。	「いじめ問題対応マ ニュアル」の周知徹 底を図る。 聞き取りを徹底的に行 い、迅速な情報共 有と関係機関との連 携を図る。 指導の検証及び事後 観察等を実施する。	B	3日で事実確認完了 5日以内で対策委員会開 催した。 事案発生後、関係職員と 迅速な対応と連携を図り 事実関係を明らかにし た。また、対策委員会も速 やかに開催し、状況報告 から今後の対応、さらには 経過報告等マニュアルを基に 対応した。

地域連携(コミュニティ・スクールなど)	地域との連携強化	具体的方策の実施状況と成果	大規模な災害の発生を想定した学校運営ができる。	C S 協議会開催、地域避難所設営マニュアルの作成、自治体と合同避難訓練の実施。	B	自治体との合同避難訓練の実施はできていないが、連携して机上訓練などに取り組んでいる。
	防災意識の高揚	具体的方策の実施状況と成果	大規模災害の発生を想定して自主的・協働的な行動ができる	避難訓練の実施及び教科での防災啓発授業、防災L H Rの実施、防災を意識した新たな訓練の実施(炊き出し、駐車訓練など)	C	全ての教育活動を通しての防災教育が浸透していないので、防災を意識した授業が少なかった。
特色ある取組	生徒が輝き活躍する農業クラブ活動の推進	農業クラブ活動の充実	農業クラブ県大会最優秀賞5部門、全国大会入賞7部門 プロジェクト活動の推進。	農業クラブを中心とした活動を実践。地域・関係機関・学科間連携を重視した活動を実践する。	B	農業クラブ各種競技は、農業鑑定全国大会において最優秀賞(食品)を受賞、8人が入賞した。意見発表大会でもI類において九州大会を突破し全国大会に出場した。一方、プロジェクト発表では事前の合同勉強会等も行ったが、県大会入賞はできなかった。
	農業の良き理解者を増やすための地域貢献活動の強化	農業教育を活かした地域貢献活動の強化	地域ボランティアの推進。 幼保少中校との連携強化。 地域ボランティアへ積極的な参加。 学科の教育内容公開。	農業体験学習実践。 地域イベントの参加や農業高校フェアによる農業高校のPR活動。 マスコミへの情報発信。 学校HPの充実。	B	開放講座(29年度6講座)、苗もの販売会、地域のイベント参加等により、本校教育のPR活動ができた。第2回農業高校フェア、第1回九州農業・水産高校収穫祭では本校が中心となって農業高校全体のPR活動にも貢献した。

4 学校関係者評価

【アンケートから】

- 少子化に伴い、定員割れになる時代が必ず来ます。選ばれる学校づくりに期待します。
- 平々地域としての意識や役割の目標等が明確化され職員の方々の手厚いご指導が感じられます。その熱意が生徒たちに浸透し、一丸となって取り組む姿が伺えます。来年度120周年という節目に向かって広く深く活躍されるよう引き続き発信してください。
- 来年度は120周年の記念すべき年であります。「建学の精神」「校訓」「夢と希望」をキーワードに準備を進めていますが、温故知新、これを機に一段と飛躍できる熊農を目指した教育活動の展開を期待します。
- 城南中学校前の登校路を変更いただきありがとうございます。車道へのはみ出しが減り安全性が増しました。
- 本校は今まで熊本県の農業界を中心にリーダーの育成に尽力されていますが具体的な取組、また新たに取り組もうとしている点等がありましたら当日お聞かせください。
- 御迷惑をかけていますが、よろしくお願ひいたします。
- 学校の出来事をよく話してくれるで生活状況がよくわかります。
- 先生方やお友達から声かけていただき、楽しく過ごせているよう安心しています。

【評議員会から】

(1) 学校経営

学校評価における「自己評価総括表」では、A～Dまであるが評価の基準を示してほしい。
ほとんどが「B評価」で適正と思われる。

(2) 学力向上(教務部)

今年度の応募者数の減少の要因は何か。

応募者数の要因は、中学校の生徒数減少と私立高校の人気が考えられる。

私立高校の定員の抑制に向けた取り組みの訴えはできないのか。

中学校の生徒数の減少については、30年度は県内の小中学校が8校減少する。

(3) キャリア教育(進路指導部)

地元熊本への就職が多くとても良いと思う。

進学後就農等農業後継者を育っている。同窓会の就農教育支援基金を大いに活用してほしい。

(4) 生徒指導(生徒指導部)

自転車通学生には任意の自転車保険を義務づけているか。

自転車通学生にはT Sマークの取得を許可条件としている。

学校では、自転車教室などが実施されているのは40%程度である。

(5) 地域連携、防災コミュニティー

熊本市にも熊本農業高校への備蓄を依頼している。川尻地区の避難所となる小中学校が、それぞれ運営協議会を開催すると関係機関の負担が大きいので、できれば合同での開催ができるとよい。

(6) 部活動関係

宇城市では31年度に部活動を廃止し、社会体育へ移行する。

行き過ぎた指導の部活動はあってはならないが、部活動をしたくて入学してきた生徒への配慮をお願いしたい。中学校でも指針の運用を検討している。小中高で揃った取組する必要がある。

(7) 事故等学校での重大事故は減少しているが、ケガは多いままである。また、交通事故数も減少していない。短時間でも効率を高める指導法を顧問も学ぶ必要がある。

PTA災害見舞金の数と件数が大幅に増大しており、生徒たちの疲労の蓄積が心配される。

5 総合評価

各項目とも「B」評価を得て、目標に対する手立てや取り組みが計画的に行われ目標を達成している。ただ「C」評価では目標設定が高すぎたり、手立てを考え直す必要がある。厳しく評価されているところもあるが次年度への取組もスタートしており、職員一丸となった取り組みを展開したい。

具体的には、次年度120周年行事の成功、生徒募集に係る取組、学校改革（働き方改革）、部活動の活性化、防災型コミュニティースクールの展開等取組を強化していきたい。

6 次年度への課題・改善方策

プロジェクトチームによる取組

※ 校内の課題、問題点等改善を要するものを、担当者を決め少人数で協議し、学校全体の取組につなげる。平成30年1月から取組をスタートしている。

A 勤務時間の把握方法（1月～6月）	B 職員の入校時間及び退校時間の設定
C 学校閉庁日の設定	D 部活動休養日と練習時間
E 生徒の完全下校時間	F 朝会の週2回実施
G 農場日直当番のあり方	H 行事（全校的）の統廃合
I 1学期中間考查の実施学年・科目、1学期末考查日程	
J PTA総会の開催期日・曜日	
K H30年度 体育大会の種目内容・応援内容・練習日程・開催日（曜日）	
L H30年度 文化祭・収穫感謝祭・120周年記念式典の日程と概要	
M H31年度以降 文化祭の内容・時間帯（一般公開、販売等）・開催日（曜日）・開催日数	
N 一斉HRの回数と時間配分	O 学年主任の分掌
P LHR計画	
Q 揭示教育の見直し	R 芸術鑑賞の実施
S 進路指導I (① 進路指導流れ、②面接実施回数)	
T 進路指導II (① 進学選考会議、②四大面接練習 ③進学書類確認内容)	
U 進路指導III (① 訪問者対応 ②学校閉庁日)	
V 避難所運営備品・消耗品	W 通級に向けての取組
X 学校安全衛生委員会の構成と会議の実施回数及び関係内規について	
Y 部活動における活動日（週1回の休業日）の調査と広報	
Z 「ひやりはっと」不祥事防止	